

案件3 交通不便地域における取り組み状況について

- 1 彼方上地区について
- 2 南旭ヶ丘町地域について
- 3 藤沢台七丁目地域について

1 彼方上地区について

目次

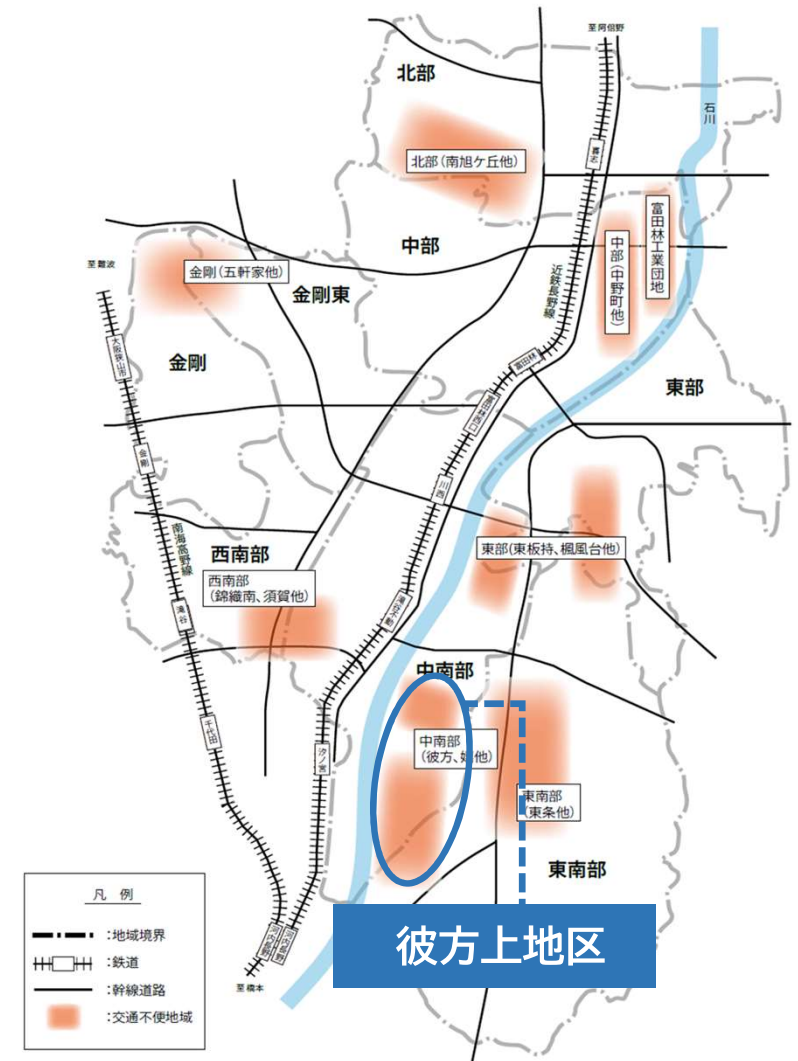
- ① 彼方上地区とは
- ② 既存のタクシーを活用した実証実験について
- ③ 利用促進策の検討について
- ④ 実証実験までのスケジュール(案)について

① 彼方上地区とは

- ✓ 主催: 彼方上7町会まちづくり協議会
- ✓ 活動地域: 彼方上7町会(富田林市大字嬉、横山、伏見堂)
- ✓ 人口: 1,331人(令和7年3月時点。以下同じ。)
- ✓ 世帯数: 693世帯 高齢化率(※): 43.2%
- ✓ 地域の特徴: 高齢化により、移動困難者が増えている。

また、坂道や狭い道が多く、徒歩移動が困難な方が増加している。

※高齢化率: 地域の人口に対する65歳以上の高齢者が占める割合



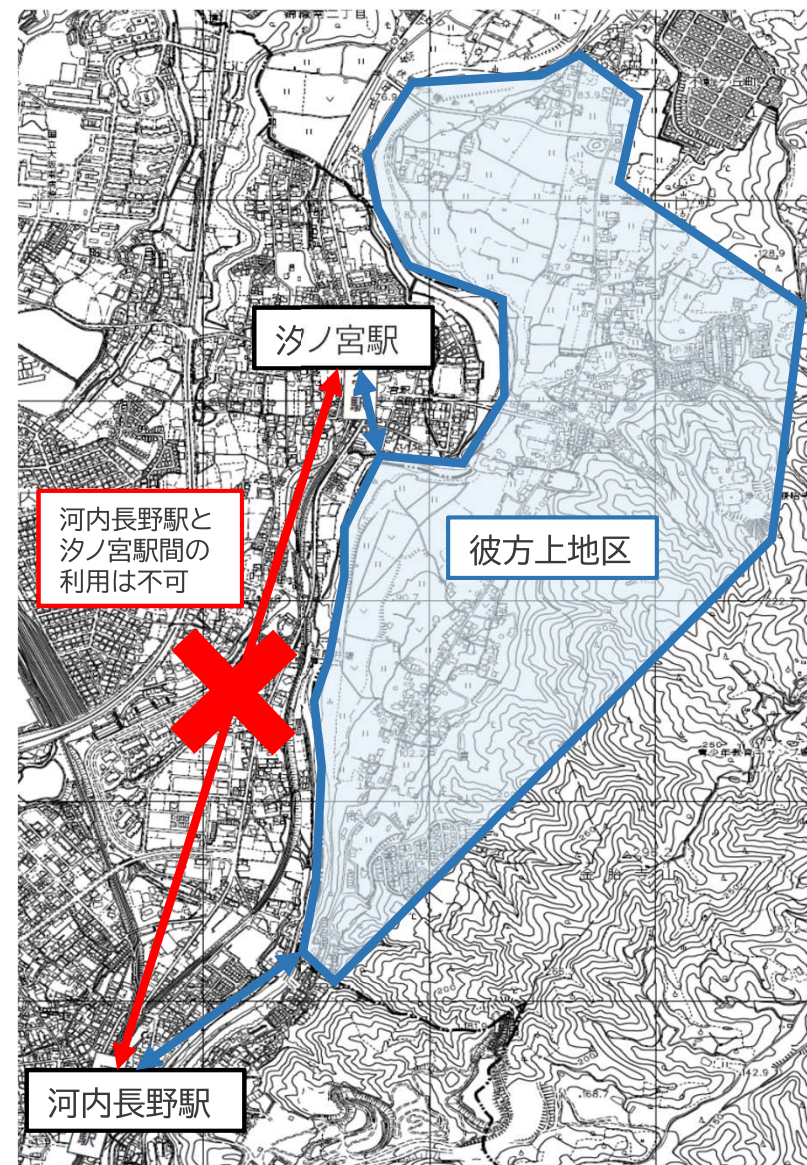
② 既存のタクシーを活用した実証実験について

実証実験の実施期間

「令和7年10月15日(水)から12月14日(日)まで」に決定

併せて、実証実験期間中に「かかしフェスティバル」を開催予定。
地域住民をはじめ、来訪者にも広く啓発することで、さらなる利用促進を目指すもの。

項目	内容
目的	既存のタクシーを活用した実証実験を行うことで、第2回実証運行に対する需要を見極めることを目的とする。
利用対象者	彼方上地区の住民及び彼方上地区へ来訪される方でタクシー券をお持ちの方
適用エリア	河内長野駅または汐ノ宮駅と彼方上地区との相互区間及び彼方上地区内を発着とする場合のみ適用とする
期 間	令和7年10月15日(水)から12月14日(日)までの2か月間
時 間	期間中毎日、午前9時～午後5時
料 金 (利用者負担額)	1人につき、大人300円(障がい者・小児は半額)



※ 今後、彼方上7町会まちづくり協議会との調整により内容が変更となる可能性がある。

実証実験エリア

③ 利用促進策の検討について

地域では、第2回実証運行の乗車目標である**収支率30%（1日あたり42人）**の利用を目指し、様々な利用促進策を検討。

周知方法

町会単位での説明会の実施

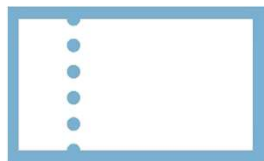


地域の町会ごとに、実証実験内容の説明会を実施。

メリット

- ・高齢者などが参加しやすい。
- ・少人数であるため、地域ごとの特性に合わせた、きめ細かく、丁寧な説明が可能。

タクシー券の事前配布



各世帯に事前にタクシー券を配布

効果

- ・周知機会の増加
- ・役員及び利用者の負担軽減
- ・利便性の向上

③ 利用促進策の検討について

周知方法

広報活動



地域住民が積極的に広く周知。

方法

- ・説明会の開催、周知チラシとタクシー券の事前配布
 - ・医療機関や沿線観光施設などへ周知依頼
 - ・「かかしフェスティバル」と併用しての周知
 - ・個々による近隣住民同士の声かけ
- ※ その他広報できる方法について検討

Q&Aの作成

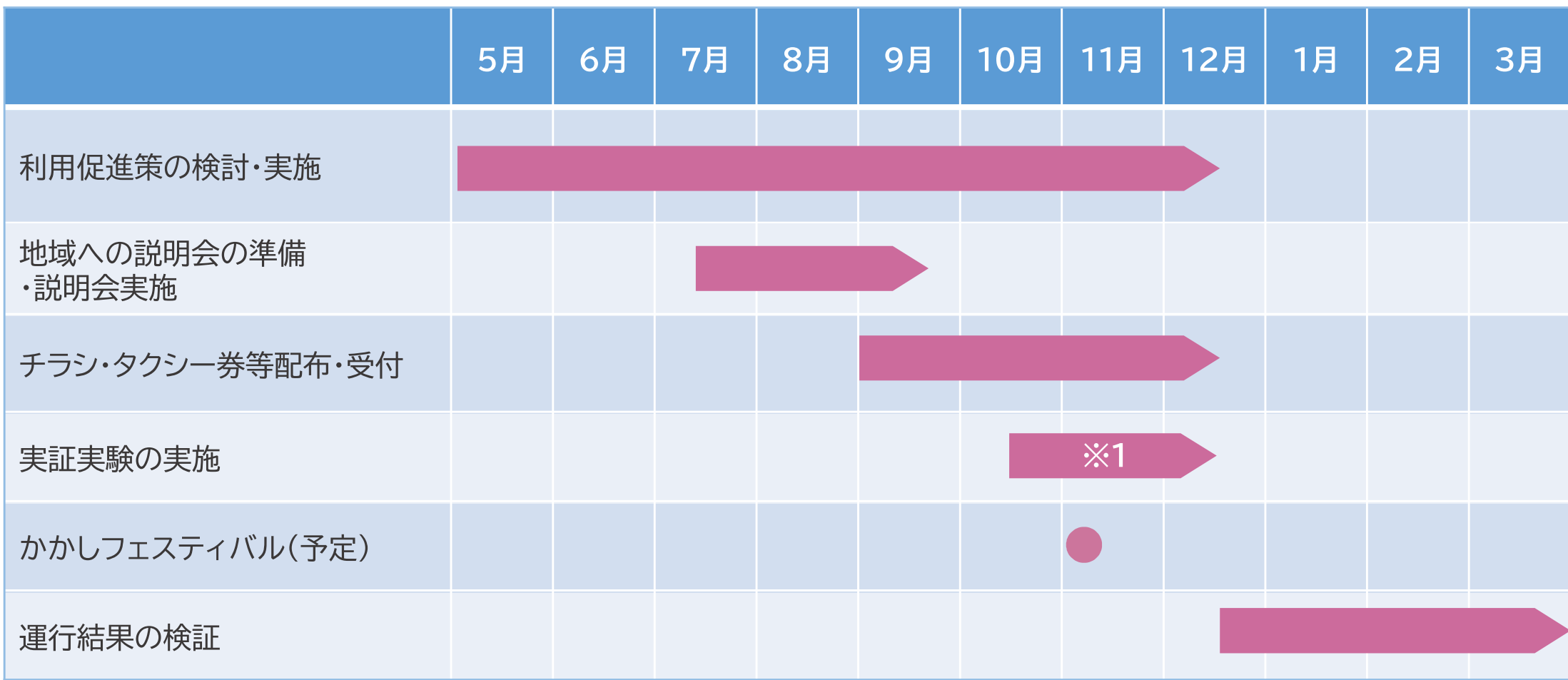


地域住民発信によるQ&Aの作成

効果

- ・即時対応性の向上
- ・地域住民の理解度向上
- ・地域住民の機運醸成に寄与

④ 実証実験までのスケジュール(案)について



※1 実証実験は10月15日～12月14日
 スケジュールについては、今後、彼方上7町会まちづくり協議会と関係者の協議などにより変更が生じる場合がある

2 南旭ヶ丘町地域について

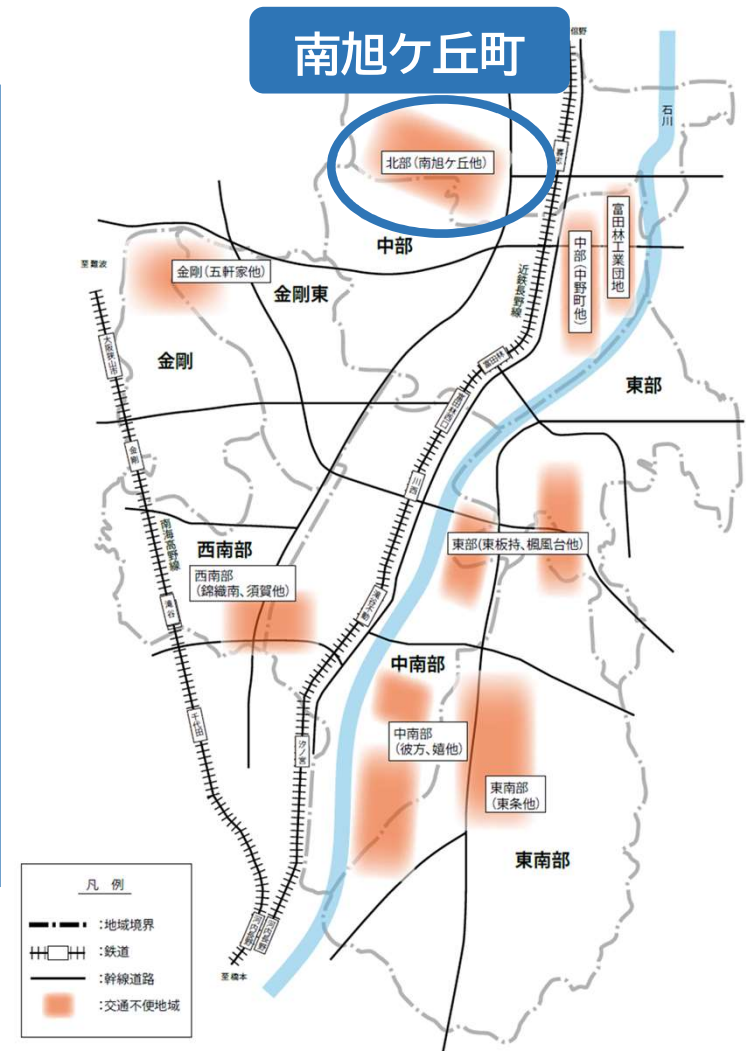
目次

- ① 南旭ヶ丘町地域とは
- ② 実証運行計画のたたき台について
- ③ アンケート調査の実施結果(中間報告)について
- ④ 実証運行に向けて取り組む内容
- ⑤ 実証運行に向けた地域が抱えている課題

① 南旭ヶ丘町地域とは

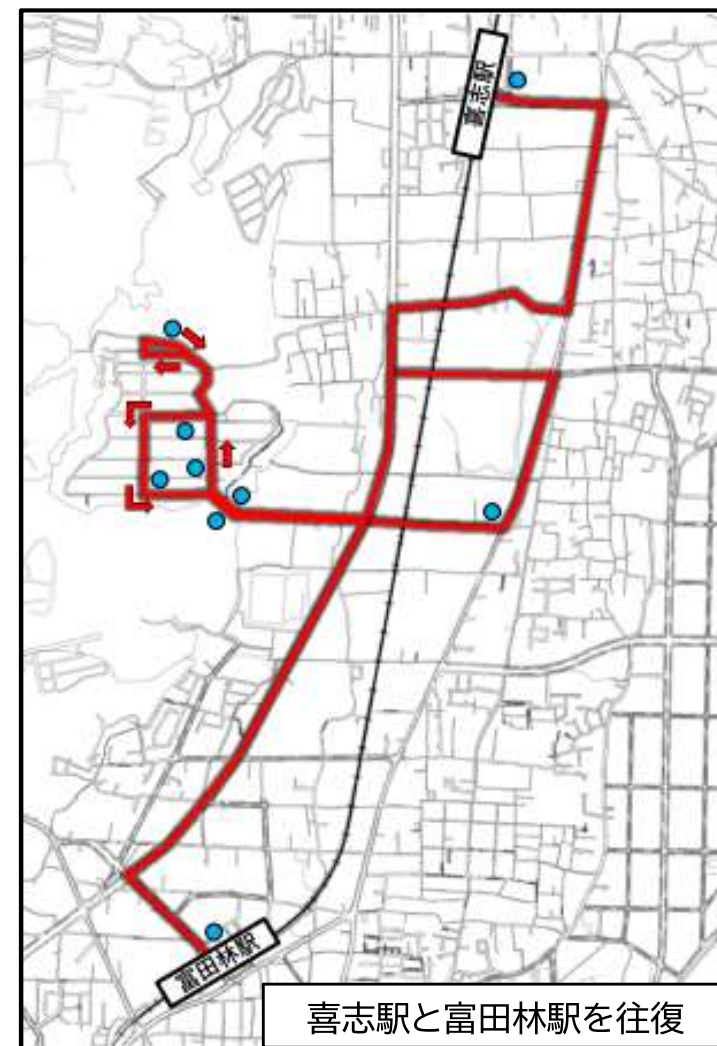
- ✓ 主催:南旭ヶ丘町公共交通導入委員会
- ✓ 活動地域:南旭ヶ丘町
- ✓ 人口:974人(令和7年3月時点。以下同じ。)
- ✓ 世帯数:446世帯 高齢化率(※):33.9%
- ✓ 地域の特徴:鉄道駅やバスの停留所から離れている。

※高齢化率:地域の人口に対する65歳以上の高齢者が占める割合



② 実証運行計画のたたき台について

目的	南旭ヶ丘町地域における公共交通の実現可能性を検証し、かつ、公共交通に対する機運を高めながら、本格運行に向けての判断材料とする。
運送許可	道路運送法第21条第2号による許可
車両	中型タクシー(乗客4人乗り)を想定
運行ルート	右図のルートを想定
運行方式	定時定路線型
運行期間	約2か月を想定
運行日時	住民アンケート調査を経て決定
料金	住民アンケート調査を経て決定



南旭ヶ丘町公共交通導入委員会
第22回会議(令和7年6月7日開催)時点

③ アンケート調査の実施結果(中間報告)について

○アンケート実施概要について

- ・実施時期は令和7年3月
- ・南旭ヶ丘町地域の全世帯に1枚ずつ配布
- ・回答率は41.92%(令和7年4月3日時点)

○回答者の年齢層について

- ・65歳以上が6割以上

○ルートについて

- ・喜志駅のみ、及び喜志駅と富田林駅の両方を利用したいと答えた方が8割
- ・回答者のうち、普段から南旭ヶ丘町から一番近いスーパーに行かれる方が半数近くで、そのスーパーを実証運行のルートに入れてほしいという意見が大半

③ アンケート調査の実施結果(中間報告)について

○運行内容について

- ・運賃は、200円と300円を希望する意見が同数
- ・運行時間帯は、7時から19時を希望する意見が大多数
- ・実証運行を週1回以上利用すると答えた方が半数以上

○その他、実証運行について

- ・実証運行については、時間的利便性や便利なルートを求める声が多い
- ・利便性向上策については、回覧の活用を求める声が大多数

③ 実証運行に向けて取り組む内容

地域では、持続可能な公共交通の導入に向け、取り組みを進めている。

取り組み(1)

運行計画案の取りまとめ



今後の検討事項について

- ・アンケート結果をさらに分析し、運行ルートを再検討
- ・利用希望が多かったスーパーへのさらなる利用実態の把握
- ・スーパー等の商業施設への協力依頼
- ・アンケート結果をもとに、適正な運賃設定の検討

取り組み(2)

広報活動



地域公共交通の検討状況を知ってもらうため、地域住民に対して広く周知を行う。

方法

- ・定期的にお知らせを発行し、配布することにより、より多くの方に地域交通の検討状況について知ってもらい、利用してもらうための機運醸成を行っている。

④ 実証運行に向けて取り組む内容

定期的なお知らせ(一例)



ごあいさつ 日頃より、南旭ヶ丘町公共交通導入委員会の諸活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

交通不便地域の脱却をめざし、当委員会が発足して約2年が経過。20回を超える定例会議(毎月第1土曜開催の委員会)、2回のワークショップの開催、4回のアンケート調査や先導地域の河内長野市への視察など種々の活動を展開、公共交通の導入に向け、全力で住民意識の高揚をめざし活動してまいりました。そして、本年4月12日(土)に「第2回総会」を開催、決算報告、事業報告などを渡し、一定の成果を得ることができたと思います。

いよいよ、令和7年度の事業運営のスタートです。年度中に待望の実証運行を実施するための計画を協議・検討する段階に至っています。今後とも、皆さまのより一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

公共交通導入委員会委員長



待望の実証運行実施に向けて大きく前進！

◆現状の進捗具合は

不便地域の脱却をめざし、毎回の委員会等で慎重なる議論・協議を行い、ようやく実証運行の実施に向けての糸ががらまえてきました。

★富田林市が示す「実証運行」までの流れでは

- 第1段階 公共交通導入の必要性の検討
- 第2段階 勉強会の実施
- 第3段階 アンケートの実施
- 第4段階 運行計画(案)の作成
- 第5段階 機運醸成・運行業者の選定
- 第6段階 実証運行

となっていますが、**現在の進捗度は ⇒ 第4段階**となっています。第4回アンケート結果から、さらに具体的な検討を進めてまいります。

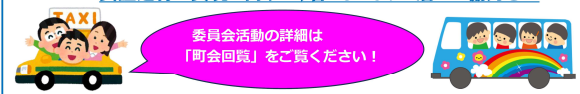
◆今後の検討課題

- ・便数、時刻表の作成、乗車運賃、割引券の発行
- ・運行における備品の準備(啓発などの広報ツール)
- ・運行ルートの中にマーケット(コープ)を入れるかなど

⇒以上の項目を総合的に協議・検討していきます。

待望の「地域公共交通」を町会が丸となって実現しましょう！

実証運行の実現に向けて、皆さまのより一層のご協力を！



委員会活動の詳細は「町会回覧」をご覧ください！

南旭ヶ丘町公共交通導入委員会
「みなあさだより」第4号の発行

「南旭ヶ丘町公共交通導入委員会」発足2年間の歩み！

委員会活動の記録を
各項目にそって、
ご紹介いたします。

公共交通導入委員会の発足

【第1回 定例会議】(令和5年6月3日)

町会役員・福祉委員会・老人クラブの代表と公募申込者14名(計19名)が参加。委員会規約の確認と各役員の選任がなされ、勇躍スタートした。

【第2回 定例会議】(令和5年7月1日)

交通不便地域の取り組み状況を学習。導入は住民意識の高揚が不可欠であることを確認。今後の進め方についての意見交換も行った。

【第3回 定例会議】(令和5年8月5日)

先導地域の藤沢台七丁目町会会長をお招きし、取り組みや苦労感などをご教示いただいた。

創刊号(7.20 発行)を紹介した。

「南旭ヶ丘くすする」の視察

【令和5年11月4日】先導事例の河内長野市南旭ヶ丘の乗合タクシー「くすする」を視察。三日月町駅停留所から乗車後、南旭ヶ丘自治会館での意見交換会に参加し、事業運営に関する質疑応答に有意義な視察となった。

アンケート調査の実施

【第1回 アンケート調査(令和4年10月)】

(回収状況は377世帯中267世帯で回収率70.8%)

公共交通の必要性の賛否をとり多くの賛同を得た結果から、町総会にて委員会発足の承認をいただく。

【第2回 アンケート調査(令和5年9月)】

ワークショップ参加者を対象に住民ニーズの把握を目的として実施。

【第3回 アンケート調査(令和6年10月)】

(回収状況は366世帯中262世帯で回収率71.6%)

より具体的な住民ニーズの把握とその実態を調査するために実施。

【第4回 アンケート調査(令和7年3月)】

(回収状況は365世帯中114世帯で回収率41.76%)

実証運行に向けた取り組みや具体的な計画策定を図るために実施。この結果から、運行ルート、運行便数、運行時刻、乗車運賃などを決定する。(表面に調査結果あり)

ワークショップの開催

【第4回 定例会議】(令和5年9月2日)

「第1回ワークショップ」の進行資料の作成、出欠の確認等を実施と今後のスケジュールの再検討を検討した。

【第1回 ワークショップの開催】(令和5年9月23日)

近畿大学・北川博日 准教授と富田林市道路交通課の協力により、住民38名の参加者が主体となって進行。北川准教授から「まちづくりと地域公共交通」についての講演後、2つのテーマに基づいてワークショップを実施。5グループに分かれた参加者がワーク1、ワーク2のテーマに沿って、意見を思いつづきまに付箋に書き模造紙に貼って意見をまとめた。各グループの代表が発表、大盛況の研修になった。

【第2回 ワークショップの開催】(令和6年7月20日)

住民31名が参加。北川准教授による「南旭ヶ丘の調査から見える地域交通のカタは？」の講演後、5グループに別れ、どのような移動手段が考えられるか？考えられる目的地やルート、停留所、運賃などを考察し、各グループでまとめた。代表が発表。充実した研修になった。

総会の開催

【第1回 総会】(令和6年4月13日)

委員長挨拶の後、議長が選出され、議事を進行。第1号議案(規約改正)、第2号議案(事業報告)、第3号議案(収支決算報告)、第4号議案(監査結果)、第5号議案(事業計画)、第6号議案(収支予算)を審議し、全会一致で承認された。次に、第7号議案で新たに新役員が選出され、新体制でスタートしました。

【第2回 総会】(令和7年4月12日)

会員数20名のうち出席者19名(委任状9名含む)が参加し、委員長挨拶の後、議長が選出され議事を進行。第1号議案(令和6年度事業報告)、第2号議案(令和6年度収支決算報告)、第3号議案(令和7年度事業計画案)、第4号議案(収支予算案)、第5号議案(役員改選)を審議し、全会一致で承認されました。今回、新たに新役員が選出され、本格的な実証運行に向け新体制でスタート、今年度中の実施をめざします。

これまでの主な掲載内容

- (創刊号)
- ・公共交通の導入の検討について など
- (第2号)
- ・実証運行の検討状況について など
- ・ワークショップの開催報告 (第3号)
- ・アンケート調査の実施について など
- ・視察状況について (第4号)
- ・進捗状況について など
- ・これまでの活動報告について など

⑤ 実証運行に向けた地域が抱えている課題

利用人数が分からない

- ・アンケートなどで実証運行を利用したいと回答されている方は多いものの、実際に運行を行わないと、利用人数が分からない。

機運醸成について

- ・検討に時間を要しており、機運を維持するのが大変である。
- ・機運が下がってしまうと、関心が薄くなるなどして、実証運行時に利用人数が少なくなってしまう可能性がある。

先進事例との比較

- ・先進事例を参考に検討を進めているが、南旭ヶ丘町地域と異なる点が多く、導入までには至らない。

年齢層の偏り

- ・アンケートでは65歳以上の年齢層の回答がほとんどで、65歳未満の方の意見が少ない。
- ・若い人の意見も反映したいが、関心が低く、意見が集まりにくい。

広報活動

- ・お知らせを定期的に配布しているが、もっと効果的な方法があれば教えてほしい。



3 藤沢台七丁目地域について

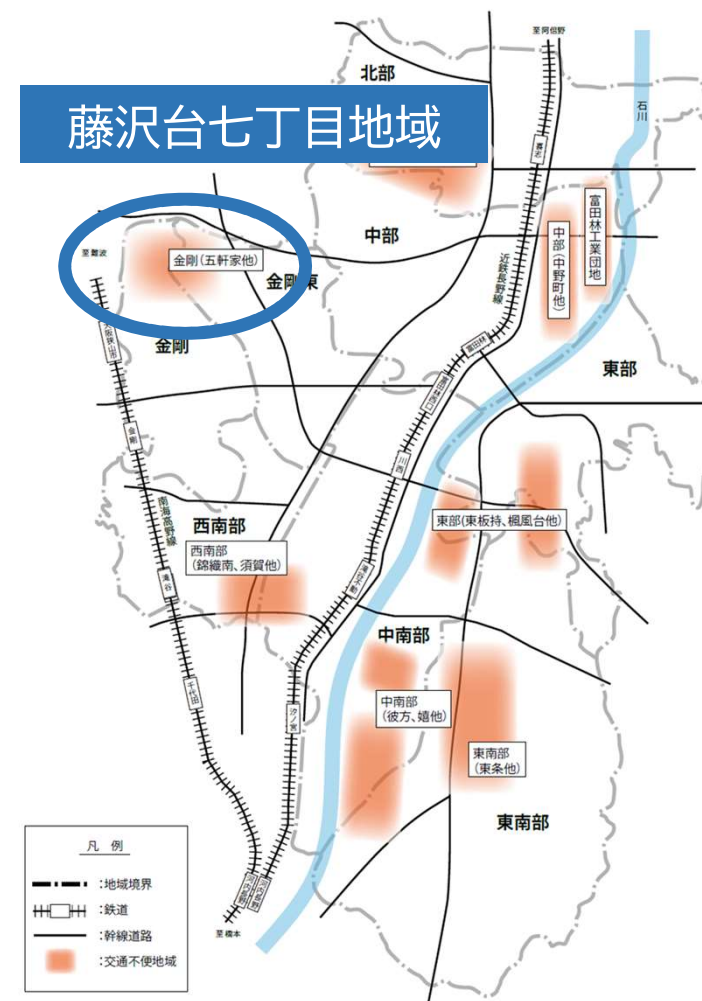
目次

- ① 藤沢台七丁目地域とは
- ② これまでの経過について

① 藤沢台七丁目地域とは

- ✓ 主催: 藤沢台七丁目地域公共交通促進対策協議会
- ✓ 活動地域: 藤沢台七丁目及び新青葉丘町
- ✓ 人口: 1,234人(令和7年3月時点。以下同じ。)
- ✓ 世帯数: 525世帯 高齢化率(※): 28.4%
- ✓ 地域の特徴: 藤沢台地域の中で唯一バス停から離れている。

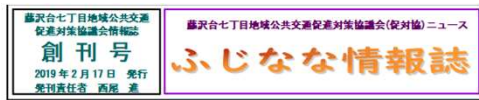
※高齢化率: 地域の人口に対する65歳以上の高齢者が占める割合



② これまでの経過について

平成29年7月	勉強会開催の呼びかけを行い、新青葉丘町会も合流し、「藤沢台七丁目地域」として検討を開始
平成30年1月～7月	第1～3回ワークショップ・住民アンケートの実施
平成30年10月	「藤沢台七丁目地域公共交通促進対策協議会」を設置
平成30年11月	河内長野市楠ヶ丘地域の乗合タクシー「くすまる」視察
平成31年2月	「ふじなな情報誌」創刊
令和元年6月	乗合タクシー愛称公募
令和元年11月～12月	乗合タクシー体験乗車実施
令和2年度～	新型コロナの影響により取り組みを休止
令和5年4月	取り組みを再開し、地域で議論する場を設けて協議を行っている

② これまでの経過について



みんなで支えあう
ふじなな便



みんなの力で 実現させよう 地域交通を

藤沢台七丁目地域では、地域のくらしを支える公共交通勉強会を実施してきました。地域の町内会をはじめ、富田林市まちづくり政策部道路交通課のご指導によって皆さん方からのご意見を聞きながら、藤沢台地域公共交通促進対案協議会(促対協)を立ち上げ実現に向けスタート、現在、コース・バス停留所の選定作業に進んでいます。交通形式は、9人乗りの乗合タクシーを考えていますが、皆さんが、もっとも便利に利用できる交通形態を模索しているところでもあります。

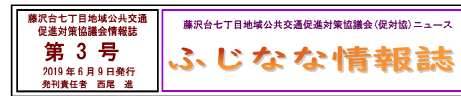
私達の住む地域住民の日常生活に、少しでもお役に立てられる交通システム早期実現に当たっては皆さん方が「いつでも、いついつまでも利用する」という住民意識の高揚が欠かせません。実現すれば、色々なご利用があると考えられますが、まずは高齢のため運転免許を返納して車の運転が出来ない方、お買い物や通院、外食に出かける時に気軽に利用するとか、時間があえば子ども達が登校や習い事の行き帰り、通勤通学の利用や路線バスへの乗り換えにと、色々な用途に、ご利用ください。

みなさんとともに、住みよい街、住んで良かった、これからも、ずっと住み続けたい町に寄与する交通システム早期実現のため今後共、全力で頑張っていきたいと思います。皆さん方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

支援して頂ける方募集しています



私達の住んでいるまちに 交通システムを 早期実現させましょう



愛称発表

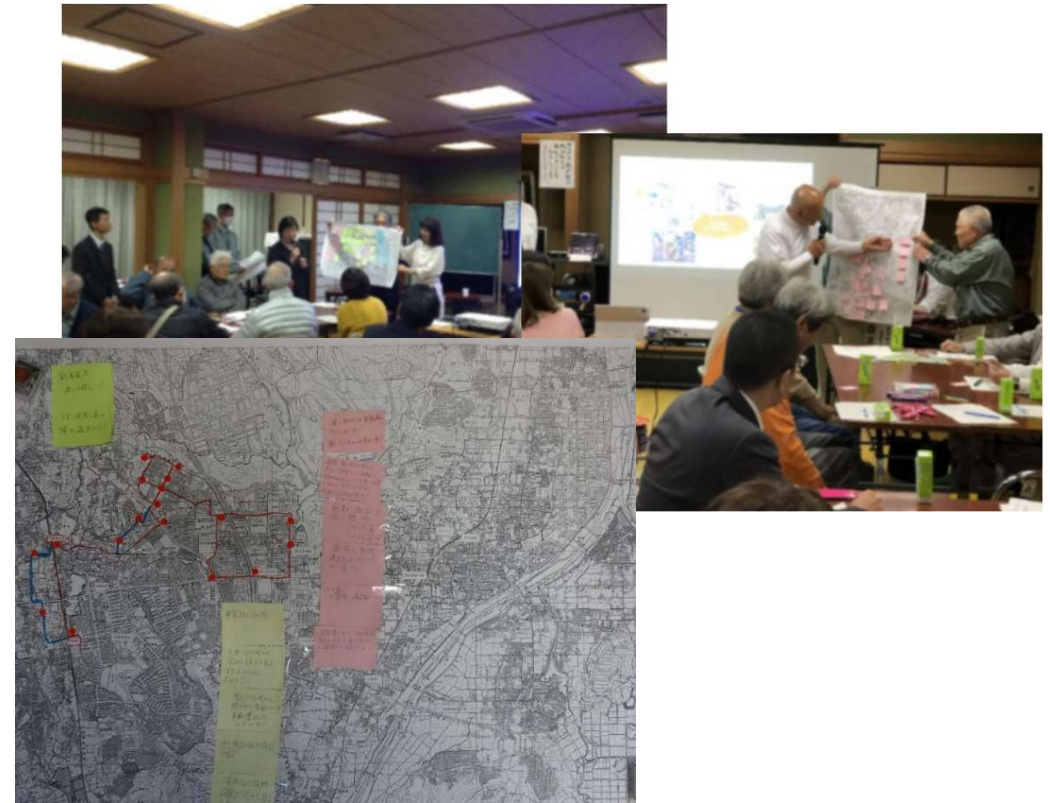
地域の皆さんから 12 通のご応募を頂きました。
ご応募は締め切りしましたのでお知らせ致します。
皆さん方のご協力ありがとうございました。下記の通りです。

No.	愛称名	理由
①	(ふじなな) 向日葵 (ひまわり) 便	藤沢台七丁目だけ周るのであれば「ふじなな」を頭に、日々、地域を暖かくしてくれるお日様に向かって咲く
②	スターバス	向日葵(ひまわり)の様に、星(スター)のようにきらきらしたバスになるように！！
③	あんなな	安(あん)全交通で七(なな)丁目を走ってもらいたいから。
④	ふなちゃん	藤七の(ふじとなな)のかしら文字から取りました。
⑤	でかけるカー	お出かけしたいと言う気持ちを大切に。大切に。
⑥	バナナちゃん	場所(な)を問わず七丁目のナナ 仲良くゆれているイメージ。
⑦	ななからちゃん	七(なな)丁目の方々が仲(なか)良く乗るから。
⑧	みのるん	地域の想いが「笑る」、皆が乗るんです。かけました。
⑨	ななスマイル	藤沢台七丁目皆が笑顔(スマイル)になれるように。
⑩	な一ちゃん	ふじななっ子という感じで可愛いからです。
⑪	らくだ号	みんな楽だ、らくだの背中に乗る感じ。
⑫	乗合カー スマイル	乗合タクシーをみんなが笑顔(スマイル)で。

※ご応募頂きました愛称は、地域公共交通促進対案協議会の会議で発表します。優秀作品賞、佳作作品賞にかかわらず、応募者全員の皆さんに500円の図書カードを贈呈します。



私達の住んでいるまちに 交通システムを 早期実現させましょう



藤沢台七丁目地域の啓発活動
「ふじなな情報誌」

過去の藤沢台七丁目地域勉強会
(ワークショップ)の様様